

「横浜市中期計画2022～2025」 中間振り返り

市民インタビューでいただいた意見

<市民インタビュー概要>

実施時期：令和6年7月

実施方法：世代ごとのグループインタビュー及び個別インタビュー

実施対象：横浜市在住の7歳～74歳の33名（男性14名、女性19名）※

※居住エリア、年齢、性別等の属性を考慮し、偏りが生じないように抽出
（令和6年度委託における民間調査会社の登録モニターより抽出）

戦略1:すべての子どもたちの未来を創るまちづくり

- 小児医療費の中学生までの無料化や夏休みの昼食提供などは子育て世代として大変助かっている。今までは、他都市よりも子育て環境が劣っているのではと思っていたが、今は子どもを育てやすい環境になったと感じる。共働きで時間的余裕がないので、これからも子育て世代のニーズを踏まえた取組を進めていって欲しい。（26-40歳/男）
- 自分は10代なので認識できていなかったが、いつの間にか無料化等が進んでいて、横浜の暮らしやすさが上がっているんだなと思った。（16-25歳/男）
- 出産補助の金額が引き上げられたと聞いて非常にありがたい。（26-40歳/男）
- 待機児童ゼロの取り組みはニュースで取り上げられていたので知っていて、すごいと感じていた。（41-64歳/男）
- うちの子どもは6歳差で、上の子の時はなかった支援が下の子で受けられたということを経験してきた。例えばおむつを持って帰らなくても良い制度で、保護者の負担が減っていると聞く。（26-40歳/女）
- 子どもが中3になったときに、ちょうど延長した医療費無料化の恩恵をタイミングよく受けられた。子どもは病気にかかりやすいので、そこが無料になるのは精神的にとってもありがたかった。（26-40歳/女）
- 学校の欠席連絡がアプリ化されて、とても便利になった。（26-40歳/女）
- 子育てしながら生活するため、子育てと仕事との両立をする必要がある。どちらかというと仕事側の時短が進んでいくことで、子育てもしやすくなると感じる。（41-64歳/女）
- 低出生体重児に関する医療費が無料だったのは非常にありがたかったが、横浜市ならではの施策なのかは分からない。（26-40歳/女）
- 孫がいるため、子育て支援内容についてはよく知っていた。やっと中学校の給食が出来てよかった。（65歳以上/女）
- 時代も違うので、どうしたら安心して子育てができるのかは当事者に聞いて作ってほしい。（41-64歳/女）
- 新型コロナウイルス感染症の拡大、1人1台タブレット端末が用意されるなど、教育のデジタル化が進んでいる。デジタル端末の活用やそこから得られるデータの活用など、子ども一人ひとりに合った教育を進めることや、グローバル化を踏まえた外国語教育の推進など、教育を横浜で受けさせたいと思えるくらいの取組を進めて欲しい。（26-40歳/男）
- 初等教育に力を入れているのは興味がある、どんな戦略か知りたい。せっかく横浜は国際化で外国人も多いので、英語を喋れる人を育ててほしい。（26-40歳/男）

- 子どもの教育も、グローバルで活躍できるコミュニケーションなど、今までと違う学習プログラムがあると素晴らしい。(26-40歳/男)
- 授業でもタブレットを活用するようになり、デジタル化が大きく進んでいる。こういったデータを活用してより良い教育を提供してほしい。(26-40歳/女)
- 小学生や中学生の放課後の居場所をもっと用意していく必要があると思う。その解決策の一つとして図書館もあるのではないかと思っている。子どもも利用しやすい図書館を用意することで、教育の面からも良い影響を与えることができると思う。(26-40歳/女)
- 最近小学生が早く帰宅するようになってきているので、居場所が地区センターなどになっている。そこに教育を掛け合わせるなどして、居場所の充実をほしい。(41-64歳/女)
- 地区センターも17時頃で閉館してしまうが、親が帰ってくる19時頃まで子どもはどうするのか。そのあたりのサポートがほしい。(41-64歳/女)
- 大和市のシリウスは、図書館の中で子どもたちが過ごせる場所があるので、そういった施設を見習って作ると良いのでは。(41-64歳/女)
- 暑い時期は外遊びがきついが、室内で子どもが遊べる場所がない。地元の福島にある全天候型プレイゾーンみたいな場所が横浜にもあると良い。(26-40歳/女)
- 現在、バイトをしていて月給が10万円程度。政治・経済の授業や社会人の友人から生活の実態を聞く中で、これから社会人になって税金も払いつつ、家庭を持ったり十分な生活を送ることが本当に出来るのかと少し不安に思っている。こういった不安が結婚や子どもを持つことにブレーキをかけていると思うので、若者世代への支援についても期待したい。(16-25歳/男)
- 30代前後の若いうちから結婚、子育てが出来る横浜になってほしい。私の母は遅くに私を産んでいて、金銭的な余裕も出るが、体力面など子どもへのしわ寄せもありそう。(16-25歳/女)
- 子育ての前の段階として、結婚を促さないと少子化は解決していかないと思う。行政はここに力を入れづらいので難しいと思うが、若者世代への支援が必要。(65歳以上/男)
- 将来に希望を抱けない現在、まだ子どもを持つ未来を想像できない。現時点では自分とは関係ない施策となってしまう。(16-25歳/女)
- 今楽しく人生を過ごせるという実感があることで、若い人が子どもを持つとうという気持ちにもなるのではないか。(41-64歳/女)
- 今後高齢者が増加することを踏まえると、高齢者向け施策に力を入れなければならないことは理解できるが、将来の子どもたちに予算を増やしてほしい。子どもに予算を回すことで、間接的に将来の自分たちを支えることにつながるのではないか。(26-40歳/男)
- 少子高齢化を食い止めるには財源が必要だが、税金をこれ以上上げることは現実的ではない。膨れ上がっている社会保障費を下げたり、経済活動を活性化させて企業からの納税額を増やしていくことによって、将来の子育て世代への投資をしてほしい。(26-40歳/男)
- 介護保険にだいぶお金をかけられているが、将来の子ども達に予算を増やしてほしい。子どもに回すことで間接的に自分たちを支えることにつながる。(26-40歳/男)
- 高齢者にお金がかかって子どもにかけられないという問題について、高齢者に対しては自分の未来は自分で貯蓄しておいてほしいとも思う。(26-40歳/男)
- これまでは文化芸術等、生活から少し遠いところでの取組が多かったが、最近子育て支援のように生活に密接に関係する取組を進めており、市民生活の向上を実感している。(41-64歳/女)

- 若い世代は子育てにお金がかかって大変と言うけれど、我々の時代は全て自費だったため、今の環境は恵まれている、と思ってもらう方がいいのではと思う。(65歳以上/女)
- 報道等で、知らない人から子どもに話しかけられたり、子育ての手助けをされると嫌だ、と聞いて、街でお手伝いをしていいのかどうか戸惑う。(65歳以上/女)
- 学校の友達は遊ぼうっていったらすぐに遊んでくれるので、公園に誘ったりしてる。公園で困っていることはない。(7-15歳/男)
- 子どものために安全な公園になっていて遊びやすいけど、サッカーをしていると他に遊んでいる子に当たってしまう。柵を作ったり広くしてほしい。(7-15歳/男)

戦略2:誰もがいきいきと生涯活躍できるまちづくり

- 高齢化が進展することで、認知症の方が増えると聞いた。本人が自分らしくいられないことも課題だが、支える家族の負担も大きなものになると思う。支える家族は子育て世代になるので、本人への対策はもちろん、認知症患者を支える側の助けになる取組も進めて欲しい。(26-40歳/男)
- 親が祖父母を介護していたときに、横浜市はホームヘルパーの選択肢が多くて困らなかったと聞いた。(26-40歳/女)
- 自分の親が高齢になったとき、補助がないと困ると感じた。(16-25歳/女)
- 50歳以上になると「物忘れ検診」を受けられるが、自分の親が認知症っぽくなったことがきっかけで初めて知った。制度として大変素晴らしいと思うので、名前を変えるなどして、これがあることを市民に周知してほしい。(41-64歳/女)
- 自分の叔父叔母から散歩、山登り、読書などを楽しんでいる話を聞くが、横浜にはそういった環境が身の回りにあると良いと思っている。(16-25歳/男)
- 高齢者自身よりも、周りにいる介護者の負担を減らすような取組を充実させるべきと考えている。(26-40歳/女)
- 地域包括ケアシステムは重要だと思うが、行政は社会保障を増やしていくのではなく、個人の負担を減らすような取組をしてほしい。(26-40歳/男)
- 認知症の祖母の対応が本当に大変だった。昔あったゲートボール会など、コミュニティを作ってほしいと思う。(41-64歳/女)
- 自分の親が認知症になった時の備えとして、施策を打ち出してほしい。(65歳以上/女)
- 敬老パスについて、他都市に住んでいる友人からは羨ましいと言われる。持続可能な形で良いので、この制度を続けてほしい。外出をして様々な刺激を受けることは、認知症対策にも重要だし、身体の間からも健康維持に役立つと思う。(41-64歳/女)
- 平日にバスに乗ると高齢者が大勢移動している。敬老パスによる外出支援は効果があるのではないか。(41-64歳/女)
- いつまでも体を動かせることが理想。高齢者が外出をしやすような取組を推進すると良いと思う。(16-25歳/男)
- 例えば、子どもの通学時の見守りのように、地域での活躍の場を設ける等、高齢者になっても活躍できる場を用意することで、いきいきとした生活を推進できるのではないか。(41-64歳/女)
- 区でやっている「老人クラブ」など、シニア向け団体があると聞いた。そういったコミュニティがあるのはポジティブなことだと思う。(65歳以上/女)
- 子育てのしやすさと高齢者の認知症対策は、高齢者が子どもの面倒を見られる場所が地域にあることで、意外と一緒に解決できると考えている。(41-64歳/女)

- 認知症サポーターやシルバー大学などで（ちょっとした子守りのやり方など）世の中に役立てることを勉強して、仕事ができるが良い。（65歳以上/女）
- シニアボランティアポイントはあまり詳しくないが、朝の通学時にシニアが見守りをしてくれるなどでのつながりを増やすと良いのではないか。（26-40歳/女）
- 65歳以上にとっては大事な活動になると思う。若い世代に対しても、勉強だけでなくいきいきと過ごせるための催し物を開催してほしい。（16-25歳/男）
- いつまでもこのまちに住み続けたいと思えるためには、高齢者になっても安心だと思えることが重要。生涯活躍できるまちづくりに向けた取組を推進してほしい。（26-40歳/男）
- 催し物の情報はロコミから手に入れている。70歳以上でも働ける場を作ることを後押ししてくれると、いきいきとした生活を推進できるのでは。（65歳以上/女）
- 楽しく生きていきたい。自分が仕事以外に何を持っているかが重要なので、楽しみを持っていない人が持てるようにできる場であるとよいのでは。（65歳以上/男）
- 地域コミュニティが活性化すると地域への愛着が芽生え、他の市に転出することがなくなるのではないか。横浜では夏祭り等の地域イベントも開催されており、今後も力を入れていくと良いと思う。（26-40歳/男）
- 地域とのつながりがあると生きる活力になると思う。社会人になって地域活動と無縁になってしまっているので、気軽に参加できるコミュニティがあれば参加したい。（26-40歳/女）
- 最近、区の祭りに参加して楽しかった。地域コミュニティは頑張っていけると良さそうと思った。（26-40歳/男）
- 子どもとトライアスロンのイベントに行った。非常に盛り上がっていて楽しめた。世界大会や芸術系のイベントを近くで見られる機会があるのは、好意的に受け取っている。（26-40歳/男）
- トライアスロンのキッズプログラムが楽しそうなので抽選に応募した。選手の人に飲み物をあげたりゴールテープの手伝いができた、また参加したい。（7-15歳/女）
- スポーツをできる場所が限られている。スポーツに触れる機会をもっと増やすと良いのではないか。（26-40歳/男）
- 自治会町内会がやっている祭りは、その地域の内輪感を感じてしまい参加しづらい。（26-40歳/女）
- 私は独り身なので、動けなくなるとまで生き続けて医療費をかけるのは世の中に負担を与えてしまうと考えているから、自分らしい最期の迎え方の選択肢をよく検討したい。（65歳以上/女）
- 田植えの授業で、近所のおじいちゃんおばあちゃんが出席していて、元気に教えてくれていた（地域の方に協力してもらっている）。（7-15歳/女）
- 病気の人でも無理だと思ったこと、無理だと思ったことも諦めないで続けていくことが大事だと思う。がんばりすぎないことも大事。（7-15歳/男）
- 英語を覚えて話せるようになったり、努力をすればできることが増える。それを知って、自分で頑張れるようになると良いと思う。（7-15歳/男）

戦略3:Zero Carbon Yokohamaの実現

- 日本各地での豪雨被害や40度に到達する気温など、地球温暖化の影響を強く感じている。このまま温暖化が進むことで、将来住めない環境になるのではないかと不安に思

う。将来世代の環境を守るためにも、今の世代がしっかりと取組を進める必要がある。
(26-40歳/男性)

- いよいよ環境対策に危機感を覚えた。出来ることを少しでもやりたいなと思った。(26-40歳/女)
- 将来的なことを考えると、少し市民の負担が多くなっても自然環境に対する対策は必要だと感じる。(41-64歳/女)
- 今、地球温暖化が深刻な中で、暑い中でスポーツをやりすぎている。ゼロカーボンが達成されて少しでも温暖化が改善するのであれば積極的にやってほしい。(16-25歳/男)
- 日本の脱炭素化の取組は世界で遅れているので、力を入れて推進していく必要がある。(65歳以上/男性)
- 地球規模で取り組むべきこと。一方で、日本は脱炭素化が遅れている。将来世代のために取組を進めていく必要がある。(41-64歳/女)
- 横浜市が取り組むことも必要だが、国の取組が世界で遅れていると感じる。(16-25歳/女)
- 脱炭素化の取組が重要なことは理解しているが、何をするとどれだけ効果があるのか正直分からない。市民が一丸となった取組を進めるためにも、どのような取組でどのような効果が出るのかわかりやすい広報が必要。(16-25歳/男性)
- エコハマの成果は出ていると思うが、それがゼロカーボンにつながっているとは今は認知されていない状態。認知されることで、市民一体で進められるようになるのでは。(41-64歳/女)
- 何を市民が出来るかは分からない。環境負荷がかかるものの方がコストが安いので、あえて高いものは選択しづらい。(26-40歳/女)
- メリットとデメリットを分かりやすくしてほしい。(16-25歳/男)
- 横浜市民は約370万人と聞いたが、これは四国の住民全員と同じくらいの人数。横浜市民が一丸となって取組を進めることで、日本において大きな効果が生じると思う。我々市民の力が試されていると思うし、率先して行動していくことで横浜から日本を変えることができるのではないか。(26-40歳/男性)
- 世界の全エリアが取り組むべきと思われる施策において、横浜が全国で先陣を切っているのであればどんどん進めてほしい。市民としても全国に先駆けた取組を進めていきたい。(26-40歳/男)
- 脱炭素化はビジネスの面からも重要だと思う。特に海外では、環境への配慮をしている企業の商品が選ばれている。日本の人口が減少傾向にある中では世界を市場にしていく必要があり、そのためにも企業における脱炭素化の取組を推進する必要があると思う。(26-40歳/男性)
- 企業だと脱炭素に取り組むことは利益にもつながる。(26-40歳/男)
- 一市民がやることと企業がやることは全然違う。CO₂排出量の多い企業がメインで進めていくことが重要。(41-64歳/女)
- 市として数値目標を設けても、「達成できなければ罰金」のルールを定めることは難しいと思うので、結局、企業も他人事で終わってしまいそう。エシカル消費を市民側から行っていくほうが意外と進むのではないか。(16-25歳/女性)
- 藤沢と比べて、横浜は暑い。この気温の上がりようは異常なので、きつめの政策にしてある程度強制力を持って進めてもいいくらいだと感じた。(41-64歳/女)
- 世界的なトレンドなので進める必要がある。企業は利益重視なので、市の側が補助金を出すことによって活動を推進することが出来ると思う。(16-25歳/女)
- ヨーロッパでは消費者まで行動が根付いているが、日本はまだである。生活者の実感に紐づくまで行ってほしい。(26-40歳/男)

- 個人では動きづらいし、結果が出るのは何十年後の話。ある程度ルール化しないと人は動かないのではないか。(65歳以上/女)
- 家庭科の授業で剥いた野菜の皮を捨てずに使ったりする授業をして、ゴミを減らすことは大事だと思った。(7-15歳/男)
- 小学校の頃SDGs委員会の部長だった。ゴミを減らそうなどの基準を意識していた。(16-25歳/男)
- 日本よりもCO₂を出している国もある。日本全体でも脱炭素化に取り組んでいるので、横浜市が特別打ち出していくべきとは思わない。(16-25歳/女)
- 電気自動車は、CO₂を排気していない点で注目されているが、実は電気を作る際や車体のアルミを製造する際にCO₂を大量に排出している。ヨーロッパでは、電気自動車のみの推進を見直している中で、日本で電気自動車が推されているのは疑問に思う。(16-25歳/女)
- いらぬものを作り続ける限りは、資源の無駄遣いになって、温暖化の問題も解決しないと思う。いくら分別しても気休めでしかないと思う。(65歳以上/女)
- 9年生きていた中で、建物ができたりスマホ、PCができて未来に近づいているなど感じる。学校でもやってみようと思った時に、それができる環境があるのはいい。(7-15歳/男)
- まだ習ってないがSDGsという言葉は聞いたことがある。(7-15歳/女)
- 学校でも話を聞く。道徳の時間に、こういうことができたらいいなという意見が沢山出て、いいな、真似してみたいなと思う。(7-15歳/男)
- (環境に関する)意見が出てきたらすぐに行ってみたり、意見をすぐ出すのが良いと思う。(7-15歳/男)

戦略4:未来を切り拓く経済成長と国際都市・横浜の実現

- 市内には多くの中小企業がある。大企業に目が行きがちだと思うがこれから就職をする若者が働きたいと思えるような魅力的な企業を創出してほしい。(26-40歳/男)
- 若者世代の雇用が不安定。中小企業が活性化することで、雇用の安定にもつながるのではないか。(65歳以上/男)
- 横浜の経済は中小企業が支えている。魅力的な中小企業が増えると経済的に安定するのでは。(41-64歳/女)
- 大企業の誘致は重要な取組。大企業を誘致することにより、そこで働く方が横浜に移住し、生活することで市内消費が上昇する。また、大企業が横浜に来ることで雇用の創出やプレゼンスの向上にもつながると思う。(26-40歳/女)
- みなとみらいに大手の企業が進出しているので、横浜市民の就職希望者が増えることで、生活してくれる人が増えていくと良い流れが出来る。(41-64歳/女)
- 大企業が来てくれたら就職先も増えそう。(16-25歳/女)
- 大学とスタートアップの連携により、横浜から世界に発信できるような魅力的な商品や企業を創出して欲しい。(65歳以上/男)
- スタートアップに力を入れることは重要。海外に負けないような商品開発など、国際競争力自体を強めていくべき。(26-40歳/男)
- 都筑区に、ドイツの企業の日本本社が移転してきた。そこで働く人がランチを食べることで、周辺の飲食店にお客さんが多く集まるようになり、気に入っている店がこれからも継続して営業を続けてくれるのではと期待している。このような良い影響を横浜市内の様々な場所に広げてほしい。(16-25歳/女)

- 企業が誘致されると従業員のために、周辺に飲食店ができたり、活性化する。(26-40歳/女)
- 2023年にみなとみらいでポケモンのイベントがあった。このイベントでは、国内外から多くの人が集まり、かつてないにぎわいを創出していった。これからもコンテンツの磨き上げや魅力的なイベントを通じて横浜でしか見られない世界を惹きつける観光地にして欲しい。(26-40歳/女)
- イベントや商業施設など、みなとみらいがすごく充実しているので、東京に行きたいと強く思わないくらいである。(16-25歳/男)
- 横浜ならではのところをもっと押し出してほしい。怖気づかずに、面白いイベントをたくさんやってほしい。横浜ならではのブランドをつくるといいのでは。(41-64歳/女)
- 民間企業が「稼ぐ事業」「還元する事業」など色分けしてポートフォリオを組んでいるように、横浜市も「ここで確保した財源をこれに活かしている」といった財源の回し方や意義を生活者へ伝えて行くと、納得感も高められるのではと感じる。(26-40歳/男)
- 企業誘致は必要だが、市民の生活まで結びつきづらい。市民へのメリットが見えると良い。(26-40歳/男)
- ここで財源を確保して、子育てに投資してほしい。(26-40歳/男)
- どんな施策をやるにしても原資がないと話にならないので、柱として考えるべきである。(65歳以上/男)
- 友人も「横浜=みなとみらい」を想起している。横浜のブランド力は抜きん出させてほしいが、市民としては一極集中に見えてしまうので、横浜の他の側面にもスポットライトが当たるようになればなお良いと思う。(41-64歳/女)
- 横浜に愛着を持っているのでブランド力の向上に意識が上っていた。ただし、ここだけだと夢の話をし続けることになると気づいた。他の側面にも費用を使って全体的なバランスを保っていくべき。(41-64歳/女)
- 渋谷などがスタートアップ誘致の街に変わりつつある。大学が横浜に多いことも踏まえ、大学の研究×スタートアップを積極的に推進し、横浜もスタートアップの街として発展することに期待したい。(26-40歳/男)
- 横浜に大学が多いことを踏まえ、大学の研究×スタートアップを積極的にやっていると良いと思う。(41-64歳/男)
- 現在も実施しているが、様々な施策や取組を進めていく上では、その成果が分かりやすいよう数値で目標を立てるべき。ただし、目標の数値だけに捉われるのではなく、時代の変化に合わせた柔軟な目標変更も必要になる。(65歳以上/男)
- 観光地として綺麗な面を発信している。一方で、女性が一人で歩くことをためらうようなエリアも市内にはある。(26-40歳/男)
- 横浜駅周辺は海外からの観光客もが多くなってきており、治安が悪くなってきたと感じざるを得ない。(26-40歳/女)
- 中国、アメリカの人たちが多くていいまちだと思われているので、自分もいいまちだと思っているし、これからもそうだと信じたい。(7-15歳/男)

戦略5:新たな価値を創造し続ける郊外部のまちづくり

- 人が多く居住している郊外部の、生活のしやすさの向上に向けた取組を推進してほしい。(65歳以上/男)

- 神戸市は都市部と郊外との差が広がっているというニュースを聞いて、横浜も少し危機感を覚えた。都市部に人を呼ぶだけではなく、住んでもらう人を増やしていけると良い。(16-25歳/男)
- 横浜市の住民は多いけれど、みなとみらいに住む人は母数として少ないので、郊外の住宅環境としての向上が必要だと思う。(65歳以上/女)
- 郊外部は人が住む場所なので、住みづらいつと人が来なくなってしまう。横浜市トータルとして栄えていくためにも力を入れないといけない。(65歳以上/男)
- 今も郊外部は、都心部や東京まで近いという利便性と自然環境が共存しており、住みやすいまちになっている。この環境を維持してもらいたい。(41-64歳/女)
- 郊外については、都会へのアクセスの良いところに土地が多いのは横浜の魅力だと思う。(41-64歳/男)
- 瀬谷も相鉄線が複数線になり、人が流れるようになって本当に便利になってきている。素晴らしいと思う。(41-64歳/男)
- 横浜駅を経由せずに東京の方へアクセスできるようになり、新横浜に行く時間も半分以下になったのはありがたい。(26-40歳/男)
- 今後、高齢化が進展することで、空家の増加や買い物が困難な家庭など様々な課題が生じてくると思われる。これらに対応できるような取組、特に免許返納を進めていく上でも、地域での交通に力を入れてほしい。(26-40歳/女)
- 横浜は坂が多く、移動がむずかしいエリアもある。高齢者向けの乗り物サービスを展開してほしい。(26-40歳/女)
- 車を持ってない人も多くなっているので、身近な地域での移動のしやすさを高めて欲しい。(26-40歳/女)
- ゆめが丘駅に大規模商業施設ができた。日頃利用する駅周辺にこのような商業施設ができると生活利便性が向上する。また、郊外部の活性化にも繋がると思うので、どんどん進めて欲しい。(26-40歳/女)
- ゆめが丘などの発展を目にしているが、人が集まり始めているのが目に見えてとてもありがたい。(41-64歳/男)
- 上瀬谷で開催されるGREEN×EXPO 2027に期待している。これまではみなとみらい周辺が横浜の顔だったが、郊外部にも顔ができることで、横浜の良さが多くの人に知ってもらえるのではないかと。跡地にできるとされているテーマパークにもここにしかないというものを期待している。(26-40歳/女)
- 花博には好印象を持っているし楽しみにしている。鉄道というインフラも整備されたことなので、イベントでの接点を活かしてみんなが継続的に郊外部に行くきっかけが増えたら良いと思う。(41-64歳/女)
- 花博が終わったら閑散とする地域ではなく、有意義な場所にしてほしい。アイデア力のある企業と一緒に開発計画を考えて見るのもよいのではないかと。(65歳以上/女)
- 郊外部には広さのある魅力的な公園が多くあるが、話題に上るスポットではなくもったいないと思っている。ゼロから価値を作るのも良いが、横浜に多く存在する資源を再活用していくことや魅力を発信していくことに目を向けると良いと感じる。(26-40歳/女)
- 鶴見区の三ツ池公園も、広いけれど話題に上るスポットではなくもったいない。(41-64歳/女)
- 横浜市の郊外部は、緑や水などの居住しやすい自然環境に加えて、コンビニ、飲食店、スーパー、医療施設などが近所にあり、暮らしやすい環境にあることが魅力だと思う。(26-40歳/男)

- 田舎にいくとスーパーや自販機がないが、横浜は消防署、コンビニ、飲食店があり、ある程度暮らしやすいのではと思っている。(16-25歳/男)
- 横浜はショッピングモール、スポーツ施設などがあり栄えている。(16-25歳/女)
- 不便に思うことはない。(7-15歳/女)
- 安全な街だとは思いますが、車が急にスピードをあげて危ないと思った。次は守ってほしい。(7-15歳/男)
- ビルだけでなく消防車や車が多くある場所がある。(7-15歳/男)
- 郊外部は山や坂が多すぎて住みにくい印象があり、年寄りになると集合住宅が楽。一軒家の需要がだんだん無くなっていくのではとも思う。(65歳以上/女)

戦略6:成長と活力を生み出す都心・臨海部のまちづくり

- 都心臨海部は横浜の成長のエンジンとして、大企業誘致や観光資源の磨き上げを推進し、そこで得た収入を子育て支援や郊外部の住みやすさなどに活用して欲しい。(65歳以上/男)
- 臨海部が盛り上がると、連動して郊外部にも一定数の人が流れてくると思う。(26-40歳/男)
- 観光は横浜の強み。この面を推進して、その他の取組の原資にしてもらいたい。(41-64歳/男)
- 水際線は横浜の固有の財産だと思う。みなとみらいの景色を見るだけで、横浜であることが分かる。この資源をしっかりと生かして横浜の魅力を高めていって欲しい。(41-64歳/女)
- みなとみらいのように、パッと横浜だと分かるようなシルエットがあること自体が素晴らしい。(65歳以上/女)
- 旅行から帰ってきたときに、高速でみなとみらいの景色が見えると、横浜に帰ってきたという気持ちになれる。この景色は市民の財産。(16-25歳/男)
- 最近、横浜駅から色々なところにデッキでつながり歩きやすくなったと感じている。また、音楽を聴くことができるホールやホテルの数も多くなっている。東京に近いエリアではあるが、魅力が多くあるエリアなので、ぜひ泊まって色々な場所を回れるような街づくりを進めて欲しい。(26-40歳/女)
- みなとみらいを散歩するのが趣味。最近、デッキなどで歩きやすくなってきている。(65歳以上/女)
- 赤レンガ倉庫や山下公園等で音楽フェスが開催されている。周遊しながら楽しめるところが横浜の魅力だと思う。(16-25歳/女)
- みなとみらいエリアに音楽ホールが多くでき、多くのアーティストのライブが開催されるようになって、うれしく思う。ライブ前後の動線には改善の余地があると思うので、よりアクセスしやすく歩きやすい環境を整備することで、多くのお客さんに横浜の良さをもっと伝えていける。(16-25歳/女)
- 音楽大学に所属しているが、ピアノのコンクールが多くある。みなとみらいホールに海外の演奏家が来てくれて嬉しい。その観客が飲食店を利用するなど、経済活性化の良い流れが生まれている。(16-25歳/女)
- 自分が行きたいと思うライブが横浜で多く開催されていることは自慢になる。(16-25歳/女)

- みなとみらい周辺は、イベントが尽きないのでうれしい。気に入って毎回行っているイベントも複数ある。歩行環境が整備されてきており、歩くのが好きなので週末は楽しめている。(41-64歳/女)
- よく赤レンガ倉庫でイベントをやっている。花火大会も多い。(26-40歳/男)
- イベントがあるのは良いこと。にぎわうしお店ももうかる。積極的にやってほしい。(16-25歳/男)
- 桜木町やみなとみらいは夢が詰まっている。それをワクワクとした気持ちで見ている自分としては、今後も横浜ならではのイベントを開催するなど、このような魅力を維持してほしい。(16-25歳/男)
- 観光資源があるから来街者も増えるので、今の状態はキープしてほしい。(26-40歳/男)
- 日本にまだ来ていないブランドとのコラボなど、横浜じゃないとできないイベントを開催する工夫が出来る方が良いのでは。(41-64歳/女)
- 臨海部の夜の治安が悪く、いわゆる走り屋(車)が多いので少し怖い。(16-25歳/女)

戦略7:花・緑・農・水の豊かな魅力あふれるガーデンシティ横浜の実現

- 横浜の良さは自然環境と都市の共存にあると思う。脱炭素の取組の一環としてもCO₂を吸収する緑は重要なので、緑の保全に向けた取組を進めて欲しい。(26-40歳/男)
- 家の周り・公園に草や木など自然が多く、落ち着ける空間だと思う。(16-25歳/男)
- 公園などに花や緑がないことは絶対ない。花や緑がないと動物も自分たち人間も困る。(7-15歳/男)
- 緑が増えていくことはいいことだと思うが、管理された緑であって欲しい。うっそうとしているだけだと、夜に不安を覚えることがある。(16-25歳/女)
- 道路に生えっぱなしの草があって危ない。緑が多いがゆえの整備不足がまず課題。(26-40歳/男)
- 都筑区は逆に緑が多すぎて、夜の道がうっそうとしていて怖い。条例で木が切れないらしい。単純に緑を増やすだけではなく、安全面を早急に対応してほしい。(16-25歳/女)
- 地方まで行かなくても身近で農業を体験できる場所は横浜市の魅力だと思う。浜なしや小松菜などの特産品もあり、自慢できるようなものが多くある。(26-40歳/女)
- 横浜以外の人にも浜なしを知ってほしい。(65歳以上/女)
- 小学校の授業の中で、浜なしの農園に行って親しみを持つようになった。(16-25歳/女)
- 少子化の中で、農地の在り方も検討していく必要があると思う。例えば大規模集約化による効率的な農業経営や、担い手不足により耕作放棄地が増える場合には大きな公園に用途を変更するなど緑を守りながらもやれることがあるのではないかと。(26-40歳/男)
- 人手不足が進んでいるので、今ある農地を新しく使う方法を模索すると良い。(65歳以上/女)
- 緑に関するイベントをよく目にする。畑も残してほしい。(26-40歳/女)
- 横浜では、市民が親しめる公園が多くある一方で、他都市から人が集まるような公園があまりないように思う。上瀬谷のGREEN×EXPO 2027の取組を通じて、横浜にしかない魅力的なものを作って欲しい。(26-40歳/男)

- こんなに緑があるのに、地元の人だけが使うものになっているのはもったいない。もっと色んな人に見てもらいたい。(16-25歳/女)
- 神奈川区の近くには、星野町公園や神奈川公園など大きな公園がたくさんあって助かっている。(26-40歳/女)
- 妻はローズイベントを楽しんでいたので経済効果があると思う。ひたちなか公園のような場所をつくると良いのでは。(26-40歳/男)
- 年配者や家族連れが多い印象なので、もっと他の世代にも来てもらえるように、大きい花畑などをつくってもらえると良い。(41-64歳/女)
- 引っ越してくる前は、横浜には都会的な印象しかなかったが、いまでは市民農園を借りて農業が出来ていてうれしい。緑が多いと、平和な印象を与えられると思う。東京と比較して、横浜はゆとりがあつて良いと感じる。横浜が様々な魅力を持っていることが多くの人に伝わると良い。(41-64歳/女)
- 私は湘南から移住した身だが、横浜で農業ができるという気づきがあつた。(41-64歳/女)
- GREEN×EXPO 2027の広告を市内でよく見かける。計画が詰まってくることで、今後どのような経験ができるのかわかってくると思うので、内容を知ることができる時を楽しみにしている。(16-25歳/女)
- 開催1000日前イベントに妻と出かけた。意気込みを感じて、期待が高くなった。(41-64歳/男)
- ガーデンネックレスのお花畑がすごく好き。花博をきっかけにして瀬谷に足を運ぶ人が増えそう。(41-64歳/女)
- お花があると落ち着く。安心する。(7-15歳/女)
- 緑が多いと、外から来た人にも平和な印象を与えられると思う。東京と比較して、横浜はゆとりがあつて良いと感じる。(26-40歳/女)
- 花はそこまで感じないが、緑は多くて良いと思う。(7-15歳/女)
- 畑の土地が多すぎてもどうなのかとは思ふ。商業施設にするなど、土地の活用をもっと進めるべき。(16-25歳/男)

戦略8:災害に強い安全・安心な都市づくり

- 地球温暖化の影響で風水害が激甚化している。また、首都直下型地震や南海トラフ地震がいつ発生してもおかしくないと言われており、安全・安心の取組は重要。安心して暮らせるまちでないと住み続けることができない。(26-40歳/男)
- 命なくしては生きられないので、最も大事な取組だと思う。(16-25歳/女)
- 間違いなく地震は来る。その時には人命を守ってほしい。(26-40歳/男)
- 災害に備えることが出来るよう、周知にさらに力を入れてほしい。(26-40歳/男)
- 地震は心配。被害を最小限で留めたり、避難所を整備したりすることが必要だと考える。(16-25歳/男)
- 昔は河川が氾濫していたが、最近は氾濫していない。河川の治水に取り組んできた成果が出てきているのではないか。安心して生活できるようになっている。(65歳以上/男)
- 分水路ができたことで氾濫はなくなってきた。あとは市民がどれくらい意識できるかにもかかっているのではと考える。(65歳以上/女)

- ずっと横浜市に住み続けており、過去に川の氾濫を何回も経験したが、分水路設置の取り組みにより、ある時から全く氾濫しなくなったので、本当にありがたいと思う。(65歳以上/女)
- 地震に強い水道管への交換の取組も進んでおり、横浜市は、全国の中でもインフラ整備の取組が進んでいると聞いている。市として市民の生命や財産を守ろうという思いを感じられる。(26-40歳/男)
- 横浜はインフラが強いイメージがある。(65歳以上/男)
- 横浜市は政令市の中でも、地震に強いインフラ整備を進めていると感じる。今後も継続して進めて欲しい。(26-40歳/女)
- 実際に災害が発生したときに370万市民を行政の力だけで守るのは難しいと思う。市民としても備蓄やハザードマップの確認などやれることをしっかりとやり、まず自分の命は自分で守る取組をしっかり進めていきたい。(26-40歳/男)
- 配られた防災マップや避難場所は頭に入れている。あえて子どもたちと話すことはないが、認識はしている。(26-40歳/男)
- 家を買うときに横浜市のハザードマップを確認した。土地に依存するところだと思うので、ある程度はしょうがない面もある。(26-40歳/男)
- 普段から避難所を知っておくなどの市民側の対策が大切である。(16-25歳/男)
- 横浜は坂が多いイメージがあるが、逆に言うと津波には強い。小学校の標高が高いので安心感があるし、防災マップの情報もありがたい。(26-40歳/女)
- 自分の家の周りは坂が多い。日常では大変なこともあるが、津波に強いのは安心。(16-25歳/男)
- 今後、大地震がくると言われており、間違いなく地震はくると思う。これまでの災害を教訓にして人命を守ってほしい。他の施策とは重みが異なると思う。また、住民が施策を認識し、災害に備えることが出来ていないと意味がないので、周知にさらに力を入れてほしい。(16-25歳/男)
- 台湾地震ではすぐに避難テントが準備された。防災についても国際水準での取組を進め、災害大国日本の中で、横浜市が災害についても先進的であれば他都市へのアピールにもなると感じる。(41-64歳/女)
- この災害大国日本で、避難のあり方については横浜が先陣を切って準備をしてほしい。避難時に雑魚寝させられるのではなくテントを立ててほしい。(41-64歳/女)
- なるべく行政のお世話にならないようにしたい。自分は海ばつの高い場所に住んでるから、あまり不安はないし、それでも家がつぶれたらもうしょうがないと観念している。(65歳以上/女)
- 外にいるときに地震が起きたら、遊具でない公園にあるもので身を守れると良い。(7-15歳/男)
- 学校で、防災の授業を受けた。椅子や机があれば自分の体を守るのが大切。(7-15歳/女)
- 雨がふったときに川ができないので大丈夫だと思う。地震は家に棚があったりして中は心配だけど、外はレンガで作ってあるので安心。(7-15歳/男)
- 近くに小学校があり、一番安全だと思う。(7-15歳/女)

戦略9: 市民生活と経済活動を支える都市づくり

- バス便が減便となっている。少子化の中で担い手がないことや、利用するお客さんの数が減っているのが理由だと思う。そういった意味でも子育て支援の充実が重要だと思うが、それだけでなく、横浜市に本社を置いている自動車会社と協力して自動運転の実証実験を行うなどの先進的な取組を進め、さすが横浜と言われるような解決策も生み出してほしい。(65歳以上/男性)
- 鉄道がなくバスでの移動が必要なエリアに住んでいるがバスが減便となっている。新しい技術での改善を期待している。(26-40歳/女)
- 担い手不足で、バスの運転手の確保が困難と聞いている。新しい仕組みで解決を図る必要があるのではないか。(26-40歳/男)
- 自転車を使っているときに、自転車専用の通行帯があまりないことが気になっている。もう少し安心して自転車で移動できるようになるとうれしい。(16-25歳/男)
- 歩行者ゾーンに自転車/徒歩レーンがあるが、ぐちゃぐちゃしていて危険。にぎわっているのは良いが、生活しづらい地域になっている。(26-40歳/女)
- 都市部だと自転車専用レーンがあるが、郊外部の方に行くとなので少し危ない。(26-40歳/女)
- 郊外部の交通では、電動キックスクーターをもっと活用しても良いと思う。エコな乗り物かつ、坂道でも利用可能なので需要はあるのではないか。(16-25歳/男)
- 郊外部は住宅が駅から離れているところが多いが、キックスクーター等で移動しやすい環境とすることで、若者が住むのではないかと。(26-40歳/男)
- 電動キックボードやシェアサイクルが普及すると、アクセス面の利便性を補填できるのではないかと。(26-40歳/男)
- 少子高齢化が進展する中で、公共施設の在り方は検討が必要だと思う。現在、数多くあるので、利用しやすいと思うが、今後は維持管理の観点からも集約化や市役所のように店舗を入れる、民間施設と合築するなど、限られたお金を工夫して使って欲しい。(65歳以上/男)
- 地区センター等を利用している。近くにあり使い勝手は良いが、維持費の事を考えると、もう少し集約を検討してもよいのではないかと。(65歳以上/女)
- 市民生活を支える上では、交通の利便性や、道路等のインフラと経済を整えるのが一番重要だと考えている。(65歳以上/男)
- どんな時もインフラと経済を整えるのが大事。水際線の整備はみなとみらいの中で大事なことだと思う。(26-40歳/男)
- 小さなお子でしっかりと道の整備などをしてくれている。安心できる。(26-40歳/男)
- 利便性は今のままでも十分。このまま利便性が下がらないようにしていただけると良い。(16-25歳/女)
- 交通が整備されたことで、電車移動がとても便利になった。横浜駅の混雑も緩和されたのではないかと。(65歳以上/女)
- 自分の子どもの通学路に老朽化している歩道橋があり、PTAも動いているが10年間一向に工事をしてくれない問題がある。(26-40歳/女)
- 市営地下鉄ユーザーだが、料金が他の鉄道と比較して高すぎると感じている。(16-25歳)

- 東急線が新横浜まで繋がったが、路線が増えすぎて行き先をちゃんと確認していないと間違える可能性が出てきた。分かりやすくなる工夫を出してもらえるとよい。(26-40歳/女)
- カーブなのに信号がない通学路があって、ちょっと危ない。(7-15歳/女)